

Forest 通信

vol.138

森林インストラクター東京会 会報

2023年4月15日発行

2023年度（令和5年度）FIT総会議事録

日時：2023年3月11日（土）13:00～17:45

場所：林友ビル6F会議室

第1部：13:00-14:00 講演会（3月度木の日研修を総会前に実施）

講師：石井誠治さん（FIT）

テーマ「4000年の眠りから覚めたどんぐりの不思議」

第2部：14:15-15:50 総会（本会）

第3部：16:00-17:45 懇親会：総会会場隣室にて実施、参加33名

総会（本会）議事（記録：事務局 藤岡真）

1. 開会宣言および定足数報告（事務局）

出席44名、委任状147名、計191名。

期末（2月末日）現在の会員数342名であり、会則に定める定足数を満たし、総会成立。総会資料は、FOREST通信Vol137（HP会員のページに掲載・保管）および決算、予算（旧HP会員限定ページに掲載・保管）。

2. 会長挨拶（会長：宮入芳雄）

皆様、今日はお集まりいただきありがとうございます。総会に先立っての講師石井さんの貴重な講演会ありがとうございます。思い出したのは、出だしの新月伐採ですが、実は高尾山では8月にやっていました。新月伐採は秋から冬にかけてやるのが当たり前ですが、夏の8月にやっていました。結果はどうなったのか林野庁から報告を受けていないので、もしかしたら失敗したのかもしれない。

さて、石井さんの呼びかけで始まった森林インストラクター東京会（FIT）。約30年近く前、最初は10人足らずのメンバーで始めました。この30年近くの間、FITを支えてくれたのは新人の皆さんです。新しく会員になった途端に3年間もこき使われる、とんでもない会に入ってしまったと思われているかもしれませんが、この3年間は決して無駄になりません。今年でやっとお役御免になった入会3年目の元樹会の皆様、お疲れさまでした。また新しく入会された皆様、いろいろ大変な3年間だと思いますが、FITをこれからも支えていただきたいと思います。それでは、総会を始めてください。宜しくお願いします。

3. 議長選出

令和2年の三井大三さんを指名。(拍手で賛同を得る)

4. 第1号議案:2022年度活動総括報告(事務局)

2022年度は、共に新任の宮入会長、入江副会長体制下での活動となりました。新型コロナに関しては、2021年9月末に緊急事態宣言が解除されて以来、FITとしての「緊急事態宣言下での活動の自粛」は解除された状態となっており、2020年度、2021年度のような活動自粛の影響は受けていません。但し、未だ終息とはなっておらず新規感染者数も2022年8月をピークとした第7波に次ぐ状況で推移しています。このような状況下、感染環境は依然として厳しく、感染防止に配慮した活動が続いています。

会の年間行事としては、2022年3月12日に2022年度FIT総会を開催。前後の講演会、懇親会は中止。2022年8月11日の暑気払いは、新型コロナ感染防止の観点より中止。2023年1月14日に新年会を開催。入会説明会、観察会、懇親会を3年ぶりに実施。幹事の元樹会(入会3年目)の皆様お疲れ様でした。

運営委員会(森の日)は、2022年4月、6月、10月、12月、2023年1月(臨時)、2月と6回実施。事前に関連資料を配布して、運営委員会の協議内容の充実を図りました。

イベント関連でのCONE保険の利用実績では、2019年度は、会員1,291名、一般3,023人、計4,314人。2020年度は会員488人、一般1,226人、計1,714人、2021年度は、会員723人、一般469人、計2,192人。2022年度(2022年3月から2023年1月末迄11か月)は、会員1,260人、一般2,481人、計3,741人でした。2021年度よりは7割ほど利用数が増え、コロナ前の2019年とほぼ同等レベルとなっています。

登録グループは、今年1グループ増えて現在29。登録グループも活発に活動を実施しており、CONE保険の利用実績のうち、イベント数で2022年度は略5割を占めています。

2022年度の活動方針として、①知名度アップ活動促進、②活動支援助成金制度の活用、③活動参加者のすそ野拡大の推進を挙げました。

①については、FIT知名度アップの一環として2016年度から実施している「山の日」制定記念まるごと!高尾山グリーンクリーン作戦は、3年ぶりに実施されました。但し、「山の日」そのものが制定後7年を経過し国民に定着してきている等の理由から、開始当時の中心メンバーをお呼びした「森の日」で協議の上、林野庁森林推進センターの了解を得て、来期よりは「森林ふれあい推進事業」の扱いは止めることになりました。

②については、事業部会が中心に実施されている5月「みどりとふれあうフェスティバル」、8月「山の日制定記念まるごと!高尾山グリーンクリーン作戦」、10月「すみだまつり・こどもまつり」に加えて、登録グループで実施の7月「杉並会・クラフト教室」、11月「ふたば会・たんけん&たんけん大沢池」、および「ふたば会・ハイキング&リース作り」、12月「杉並会・自然の恵みを生かしたクラフト作り」にも活動支援助成金の支給を実施しました。今後も予算の許す限り、より広範な活動を支援していく予定です。

③については、懸案のスキルアップデータを整理して活用し易くしました。

2023年1月末時点での会員数は、343名。昨年度末に比べて4名減。尚、2022年度の東京在住の森林インストラクター合格者は、15名。内友の会関連が5名。FITへの

入会者は、1月末現在10名です。

5. 第2号議案：2022年度収支決算報告(会計：横井行男)

2022年度の繰越金2,284,297円、収入1,851,504円、支出1,301,261円。当期収支550,243円の黒字となった。次年度繰越金は2,834,540円。

また特別会計(活動支援助成金)については、7イベントに支援金計297,312円を助成した。次年度への繰り越しは、1,817,332円。

6. 監査報告(監査：熊木秀幸)

監査の結果、適正処理を確認

7. 第1号議案、および第2号議案に対する質疑・応答特になし。拍手を以て承認。

8. 第3号議案：2023年度運営体制

会長	宮入芳雄	(05年)	留任
副会長	入江克昌	(27年)	留任
事務局長	藤岡 眞	(28年)	留任
会計	横井行男	(29年)	留任
監査	熊木秀幸	(28年)	留任
広報部会長	鍛冶健二郎	(28年)	留任
安全部会長	入江克昌	(27年)	留任
事業部会長	長谷川 守	(24年)	留任
研修部会長	小勝眞佐枝	(25年)	留任
友の会運営部会長	芝原 久	(30年)	留任

9. 第3号議案採決

拍手を以て承認。

10. 第4号議案：2023年度活動方針(事務局)

新型コロナの影響は、既に3年以上に及んでいますが、まだその終息が見えない状況です。2021年9月末以来緊急事態宣言は発令されておらず、FITとしての活動自粛はしていませんが、これまで以上にお客様およびFIT会員の安全を第一とした活動が求められています。

従来から掲げている以下の三つの重点施策を引き続き推し進めていきます。①知名度アップ活動促進、②活動支援助成金制度の活用、③活動参加者のすそ野拡大策の推進です。

①については、これまで積み上げてきたイベントをコロナ禍で途絶えさせることなく、継続実施していきます。広報部会と連携してHPを継続的に充実させて、一般閲覧者への情報提供を図ります。会員紹介欄を更に充実し、より多くの会員の情報提供に努めます。FITの紹介資料(A4リーフレット)、PRカードなどの最新化を図ります。

② については、予算の許す範囲で、対外的かつ社会的貢献度の高い活動に支援助成金を支給し、FIT会員がより多く参加できる機会の掘り起こしを図っていきます。登録グループなどへの活動支援の充実を図ります。

③ については、事業部会と連携して、ふれあい推進事業で実施中の体験参加の促進、イベントを主幹事として実施する人材の育成を図り、新規案件を受け入れる人材確保に努めます。又、国土緑化推進機構より「森林ESDサポーター(仮称)育成の一環として小金井市小学校の取り組みへの人材派遣の要請があり、森林インストラクターになっても現場参加の機会のない会員にとって良いチャンスであると捉えて、FIT内での人材募集を実施の予定。「運営委員会(森の日)」により多くの会員の意見が反映されるような工夫を検討します。

11. 第5号議案:2023年度)収支予算(会計:横井行男)

収入1,829,895円(内会員1,694,875円、友の会135,000円、利息20円。対前年予算△24,505円)。支出1,561,144円(内交通通信経費380,000円、一般経費1,181,144円。対前年度予算+116,989円)。当期収支は(収入-支出)で+268,751円。特別会計(活動助成金)の2023年度年初残金は、1,817,332円。助成金予算申請は、みどりとふれあうフェスティバル120,000円、すみだこどもまつり150,000円の2件、計170,000円。

12. 各部会活動報告、年次計画(各部会長)

1)事業部会(部会長:長谷川守)

2022年度活動報告:イベント実績は資料に記載の通り。毎月事業部会を開催し、これらのイベント等の進捗状況を確認しながら齟齬のないように進めています。特に問題はありませぬ。事業部会は、FIT会員の活躍の場をサポートする立場にあります。FIT会員はいろいろな活動をしてはいますが、その活動は社会より必要とされており、期待と要望に応える為の努力が必要なことを改めて感じた1年でした。

2023年度活動計画:実施するイベントは2022年度とほとんど変わりませぬ。実際に森林ふれあい推進事業については、ついこの間関東森林管理局との協定書を締結しました。特に2022年と2023年で活動内容はあまり変わりませぬが、協調したいことが2件あります。まず、事業部会は23人のスタッフで運営していますが、女性スタッフは3名のみです。更に2名の予算枠を用意しています。女性のスタッフを増やしたいので積極的に参加をしていただきたい。

2点目は、コロナの影響でネイチャークラフトイベントの中止が相次ぎましたが、昨年はみどりとふれあうフェスティバルとすみだこどもまつりの2件が実施されました。一般参加者には熱気があり、FITとしても新年会に次ぐ大きなイベントであり、尚且つ親子とのふれあいができます。事業部会としてもネイチャークラフトを充実したいので、担当者も正1名に加えて副を1名から3名としました。後継者も含めてしっかりした体制を整えました。

また毎月の事業部会にも積極的な参加をお願いします。

2)安全部会(部会長:入江克昌)

2022年度活動報告:ONE保険利用者数は、2020年度、2021年度は活動が制限されていたので使用実績も減りました。2022年度は、2019年度とほぼ同数となりま

した。4月木の日研修で安全研修の座学編を実施しました。FIT先輩の経験談に加えて野口いづみさんに講師をしていただきました。野外編では、親子観察会と同じコースで安全に関する研修を実施しました。

2023年度活動計画：木の日研修は、FITからの講師にも話をさせていただきます。野外編は、例年通り親子観察会と同じコースで実施する予定です。尚、2023年3月のふれあい推進事業のイベントで事故が起きました。詳細は別途報告する予定です。

3) 研修部会(部会長:小勝眞佐枝)

2022年度活動報告：コロナ禍の影響での中止はありませんでした。野外研修を中心に充実していました。木の日研修はすべてリモートで実施しました。アンケートを実施しましたが、リモートの支持が高く、来年度もリモートで実施予定です。

2023年度活動計画：研修計画は資料に表を載せてあります。まだ内容が決まっていないものもあります。

木の日研修の件数は、年6回としました。FIT会員の講師を募集しています。研修会の回数が増えており、講師への謝金が増えます。研修部会のHPの担当者、草木染、森林塾のスタッフにも手当を支給します。

4) 友の会運営部会(部会長:芝原久)

2022年度活動報告：コロナ禍ではありましたが、日程通り実施できました。友の会会員3名、会員以外で模擬試験受講の2名、計5名が森林インストラクター試験に合格しました。講師、スタッフの皆さん、ありがとうございました。友の会の活動内容をHP等でも紹介しています。

2023年活動計画：昨年と同様、FITの活動に関心のある方と森林インストラクター試験合格を目指す方の両方を友の会で受け入れます。友の会でもFIT会員の増員を図っています。友の会は、FIT会員皆様の会として捉えて頂きたいです。

5) 広報部会(部会長:鍛冶健二郎)

2022年度活動報告：2021年度よりHPを新しくしました。2年を経過した中で、広報部会としては予算低減、作業量削減となりました。逆にイベント情報や活動報告は各登録グループでやってもらうことになりました。各登録グループに魅力のあるHPができました。一方、FIT全体の各活動が見にくくなったというマイナス面もありました。

2023年度活動計画：HPへの投稿者を増やしたいと考えています。各登録グループとの連携を増やしたい、そして、一般の参加者からも魅力のあるHPにしたいと思っています。魅力あるFOREST通信にしたいので、FOREST通信の担当を増やします。また、HPのデータ保存ができるような方策の実施を検討します。皆さんからの投稿を増やして、HPを魅力あるものにしたいので宜しくお願いします。

13. 第4号議案、第5号議案、部会活動報告/計画に関する質疑、応答。

Q:23年度入会者が11名に対して22年度の退会者が16名もあった。将来に亘って、会員数の減少が危惧される。退会者を減らせないか。退会の主な理由はなにか？(斎藤幸雄さん)

A:事務局:ご逝去2名。老化、病気など健康上の要因7名。東京からの転居2名。ご家族の介護1名。ご高齢による要因が多く、FITの活動への不満からの退会はありません。

Q:予算の年会費の利息が前年度実績ではなく、前年度予算並みになっている理由はなにか?(池田良知さん)

A:会計:ゆうちょ銀行の事情により前年度の利息が低めになりました。2023年度は例年並みになる見込みの為前年度並みの金額としました。

Q:事業部会は非常に幅広く活動していて良い活動だと思います。すでに10年前後の活動実績があり、事業部会が面倒を見ないでもよいと思われる活動があります、例えば“田園調布学園”“低山はいかい”“高尾山GC作戦”。独立させてはどうでしょうか。事業部会の予算削減もできます。(津田勝さん)

A:事業部会長:考え方に同感です。例年の扱いを踏襲して来ていますが、検討します。“低山はいかい”は既に登録グループになっています。“高尾山GC作戦”も数名のスタッフを抱えています。それぞれの代表者を含めて対応を検討して行きます。“田園調布学園”に関しては、外部案件として独立させる対応になるかと思いますが、すぐに独立させるのは、ちょっと難しい気がします。事業部会内でしっかり検討してご返事したいと思います。

Q:安全部会ですが、3月13日からマスクの着用は個人の判断に任せるという状況になってきています。マスクの使用に関して、一般参加者、スタッフを含めてどういった扱いにするのか安全部会として見解を出したほうが良いと思います。(津田勝さん)

A:安全部会長:従来から新型コロナの対応はFIT全体ということで安全部会ではなく、事務局が意見を集約しています。運営委員の一人としての私の意見は、これまでのコロナ対策は、緊急事態宣言に対応したFITの活動自粛は別として、実際には、各イベントの主催者に対応を任せてきています。今後も各イベントの主催者に一般参加者への対応を含めて任せることで良い様に思います。事務局長:安全部会を含めて、次回の森の日で意見を集約して、FITとしての見解を決めるようにします。

Q:研修部会は充実してきて素晴らしいと思います。スタッフの手当が昨年より3倍になっています。手当が増える分、内容も3倍くらいにならないとおかしいのでしょうか。(津田勝さん)

A:研修部会長:新しいスタッフの方に入って頂き、研修部会の活動力を高めたいと考えています。研修部HP担当には、HP業務のみならず研修会の幹事としてのスタッフをお願いします。草木染、森林塾のスタッフには関連した研修会については幹事や運営に携わって貰うことを考えています。手当は、価値のある投資と捉えています。

Q:友の会の活動は、非常に意欲的な活動をされています。森林インストラクター試験合格を目指す方と、FITの活動に関心のある方の2種類の会員が出てくるのではないのでしょうか。そうなると対応も違ってくるので会費も2種類に分けてはどうでしょうか。(津田勝さん)

A:友の会運営部会長:FITの活動に関心のある方も、できるだけ資格をとるように促していきたいので、友の会の会費はこのままにして、FITの種々イベントへの参加費用の割引をするような検討をして行きたいと考えています。

Q:広報に関して、HPのスライダー写真を増やしているが、投稿者が限られている

こともあって、アクセス人数を増やすのは難しいと思います。またHPのメンテナンスには人手と時間もかかります。つまり誰かがやるとなるとコストもかかります。広報部会の予算を減らしたのは良いと思いますが、労力に見合った手当は必要だと思います。人手をかけないと頻繁な情報の発信はできません。自分が関係している”パウロの森”や”山笑(やまにこ)会”のHPの例もあります。良いHPにするには、ある程度のお金がかかるのは仕方がない。あまり増やすことはできないだろうが、将来を見据えて、今より予算を増やしても良い様に思います。検討してください。(稲葉力さん)

A: 広報部長: HPトップページのスライダー写真だけではアクセス人数は増えません。アンケートの結果も、必要な時にアクセスするという方が多かったです。トップページなので、できるだけ充実はさせたいと思っています。メンテナンスは各登録グループの方に、業務を押し付けたような面もあります。今後その辺のバランスをみて、その対応は、森の日でも議論していきたいと思っています。

14. 第4号議案、第5号議案採決

拍手を以て承認

15. 第6号議案: 会則、付則の修正(FIT所在地の記載): 事務局

事務局より説明。質問はなく、拍手により承認。

16. 議長解任と閉会宣言: 事務局

以上

巨星墜つ

FITの大スター末廣担さんがお亡くなりになって九ヶ月が経ちました。まさにFITの巨人で様々な会員に大きな影響を及ぼしています。エピソードとして思い出すのは、ご本人はビバークしたつもりが大捜索隊出動の遭難テレビニュースになったこと。また八十歳を超えてからスキーのフルセット(ウェアも)新調されたこと、ラジオ体操指導士、バラ鑑定資格者であったことなど思い出されます。末廣さんとの関わりの深い四人の会員から追悼文をいただきましたのでご紹介します。(編集部)

末廣さんを偲ぶ

伊藤 謙二

あの独特のしゃがれた声が懐かしい。もう今は聞くことが出来ないのは寂しい限りだ。FITでもJAC科学委員会でも大先輩だが、よく後輩を可愛がってくれた方である。種々説明でも議論でも常に理路整然として頭脳明晰さを感じさせる方だった。大分昔の話になってしまったがFITの志賀高原スキー会でFITのあり方についての議論の際、重鎮として皆の話をしっかり聞いて纏めてくれたのをよく覚えている。そんなわけで女性にも人気があった。探索山行と称する山歩きの会にはいつも妙齢のご婦人を誘って参加されていたのを思い出す。高学歴の美人インテリな方だったが、ある時、冗談で年甲斐もなく情婦ですかと聞いたらガールフレンドの一人だと軽妙に答えてくれたのがいかにも末廣さんらしかった。御霊安らかに天国から今後もFITを見守って欲しいと願っています。

末廣さんの思い出

17年 平野 裕也

ご高齢にもかかわらずいつもアクティブに活躍されていた末廣 坦さんが昨年6月23日に87年の人生を閉じられました。末廣さんとのお付き合いは私が2005年に日本山岳会に入会した時に始まりました。以来30年近い歳月を日本山岳会科学委員会の活動を通して行動を共にしてきました。谷川岳マチガ沢の氷河痕跡の探索や只見地方の豪雪による植生や独特の地形などの探索、大島の植生や火山地形の探索、霧ヶ峰の黒曜石探索、浅間山噴火の歴史探索、糸静構造線、中央構造線の大断層地帯探索、上高地の自然探索、三つ峠のアツモリソウ探索など数え上げれば切りがありませんが、それぞれの山行での末廣さんの行動の場面がはつきりと蘇ってきて、懐かしさに涙が出るほどです。一方FITでのお付き合いも私がFITに入会した2006年から昨年に至るまで16年間、途切れることなく続きました。末廣さんは低山はいかいクラブの常連で毎月元気よく歩かれていましたし、新年観察会などにもいつもニコニコ顔で参加され、周囲を和やかな雰囲気包む魅力的な方でした。

またFITが開催するいろいろな勉強会にも積極的に参加されその向学心には頭が下がる思いでした。いつも前向きで周囲への気配りも忘れず最後まで青年のような気概を持って行動されていた方との思いを強く持ちます。晩年、奥様の体調が悪く、食事なども家族分をご自分で作っていたとの話を亡くなった後ご家族から伺い、そんなそぶりも見せずに最後まで前向きだった末廣さんは、今、柿生霊園に安らかに眠っておられるはず。長年のご厚誼に感謝しつつここに謹んでお悔やみ申し上げます。

FIT16期の末廣坦さんが昨年(2022年)6月に急逝されました。FITのメンバーとなって直ぐに「森林インストラクターとして1千万円プレイヤーとなる」と宣言し、当時のメンバーに一躍有名となったことからご存じの方も多いと思います。この発言を大言壮語と捉えた方が多いようですが、50年近くお付き合いした私は、末廣さんを良い意味での「直情径行」の人であったと考えています。

当初は新入社員として配属された地方の営業所で時折所長に掛かってくる電話で大営業部長の大声を漏れ聴いていましたが、3年目から直轄の営業企画課の一員として、すぐ側で電話だけでなく大声の指示や叱声を聴くこととなりました。営業部長としての実績では、営業部隊を大声で指揮して10年ほどで会社全体の利益の半分ほど稼ぐこともある事業を育て上げた立役者でした。

上司としては大変な人でした。毎週一度は部下の誰かが机の横で大声で叱責されていました。私が知っている範囲で、最も頻繁に叱られていた先輩は、その後当該事業のトップを務めることになりましたが、周囲は余りに五月蠅いので、その度に社内の各所に避難したものです。ちなみに、末廣さんは社内の人を「気のあう人」と「苦手な人」に分類していたようで、怒鳴られ易い人は前者で、怒るとすぐに辞めてしまいそうな私はどちらかというと後者に分類されていたようです。従って、部下である間に怒鳴られた経験は余りないのですが、直属部下となった2ヶ月後に一度酷く怒られました。営業部キャンプの企画・実現を指示されながら私が余り重要で無いと判断し放って置いたところ、「君の一番重要な仕事はこれだ」と1時間以上怒鳴られたことがあります。手段としての妥当性には未だに疑問はありますが、若い営業集団のモチベーションを維持するのは、末廣さんにとっては重要な課題だったのです。

末廣部長はさまざまな課題を思いついては部下に検討を命じる大変な上司でしたが、その業務指示の対象の範囲は広く、キャンプだけでなく、住宅展示場で定期的を開催するお茶会、木場の人間国宝を招いた社内木遣り集団の練習等々、遊びともつかない課題もしばしば降ってきました。いずれも末廣さんの思いつきが「直情」に至り、事業の目的のための課題として実施されることになりました。そもそも末廣さんの直情が社内で一番有名になったのは、ご自身の新入社員時代に本社で見かけた社長秘書に一目惚れして奥様としてしまった件でした。

末廣さんは、以前は地鎮祭に訪れる神主に聞いた所得や独占事業の仕組みから、神主が退任後に目指すキャリアだと宣言していました。おそらく森林インストラクターの1千万円は、当初の目標値がそのままスライドしてしまったのだと想像します。目標値は別として、会社を退任されて森林インストラクターとして活動を始めた「径行」の消息を、当時は別の会社に移っていた私も聞いていました。

末廣さんの最初のインストラクションは、一声で喜んで集まる元の部下達30名ほどを集め日比谷公園で樹木観察会にトライしたという話で、寒中殆ど原稿棒読みのお話を数時間聞かされて風邪を惹いたというような噂話が耳に入りました。余りに不評なので少し心配しましたが、その後お会いする機会があり、元会社の顧客サービスとして樹木ウォッチングを提案して実現するのだと、全くめげずに活動の展望を話されました。そのちょっと前に、末廣さんから森林インストラクター試験を受けるという話を聞いていたことや、出張先の書店で偶然見かけた西口先生の『森林インストラクター』という本を読んでいたこともあり、思わず面白そうですねと話を合わせ

たことが失敗でした。自らの迂闊さに気づいたとき、末廣さんからFIT友の会へ誘われました。「友の会のメンバーは殆ど東京農大の女子学生だ」というキラークもあり、友の会への入会が決まりました。

しかし、私も未だ50代前半で真面目に仕事をしていたため、とうとう入会后1年間、一度も顔を出すことなく過ぎてしまいました。友の会事務局から次第を聞いた末廣さんから電話があり、事情を話したところ、やはり無理かなと納得していただいたようで、私は漸く魔の手から逃れることが出来たと安堵したものでした。ところがそれから5年ほど経って仕事が一段落していたところ、正月明けに末廣さんから電話が掛かってきました。「君も暇になつたらしいな」と誰から聞いたのか切りだされ、友の会の休会は終わりだと宣告されました。本当に暇だったので断れず、その年友の会のプログラムは皆勤して勉強し、何とかFITの仲間に入れていただきました。友の会に女子学生はいませんが、先輩の知見や何人もの仲間を得ることが出来ました。

最近は、ご自身で開拓した自然ウォッチングの会を、さまざまなグループを組織して、1ヶ月の殆ど毎日、楽しそうにインストラクションの仕事をしていました。たくさん末廣ファンもいて、都合が悪くなると代役を引き受けると、お客様が目に見えてがっかりされる経験を何回もしたものです。そのウォッチングのお客様から何人か友の会にリクルートされ、FITの仲間になっています。末廣さんの第二のキャリアに係わる「直情径行」は、ここに成立していたと思います。千万人が反対しようとも、強い意志を持って、真っ直ぐに目標に向かって行動する。まさに末廣さんを指している言葉だと、改めて思っています。

天国での第三のキャリアへの愛すべき直情径行を想像しその成功を祈念しております。

「末廣担」さんお世話になりました

田口農雄

経験の浅い身で、事業部会長を引き受け、末廣さんには、種々ご指導戴きました。私は2001年にFITに加入し、事業部会のイベントには積極的に参加していました。当時はクラフト関連のイベント(キャンピングショー、高尾山みどりの日、日比谷公園)が盛んでした。

事業部会長として、親子自然観察会を含めたふれあい推進事業を確立することが急務だと思いました。クラフト仲間と山や森の話をする、高尾山にも登った経験が無い、ましてや関東の山も知らない方もいました。運動具店に案内し軽登山靴を紹介試着し喜ばれました。身近なフィールド、山や森に慣れ親しむことが大事だ。これから始めようと思いました。

「森林インストラクターはもっと山に馴染まないといけない」との思いから、①仲間アウトドアを経験する、②低い山で実施する、③先輩との交流も必要、④高尾山だけでなく他の山も知る必要がある、⑤関東一円の山を知る、⑥イベント能力を付ける、日本山岳会会員である末廣さんに相談をすると賛同して戴き実行にうつした。2009年6月24日(水)第一回目低山はいかいを「高水三山で実施した。梅雨時期で8名の参加があり、集合場所の軍畑駅はかなりの雨であった。末廣さんが到着され、「この雨ですが、安全第一で行きましょう」と伺うと、「これ位の天候は経験したが良い」と出発しました。途中から天候も良くなり、爽やかな山行でした。次回は7月

31日(日)、女性の方の提案のコースを下見に行ったが、峡谷を下りる危険箇所があり、低山はいかいの主旨から外れたため、別な場所へ変更して下見を実施した。山道の安全は、「登り優先」を守ること、これを実践する人が少ない。登ってくる人を見たら、下りる側が静止して上りが行き過ぎるのを待つ、これが基本です。末廣さんは低山はいかに参加された時、名前を知らない人がいると、よく訪ねられました。。きちんと相手を認識しようと努力されていました。見習うことがたくさんありました。新しいインストラクターの活躍にも目をとめて楽しみにしていましたね。お酒を傾けながらお話を伺いたいです。

新入会員(もりもり会)からのメッセージ

「もりもり会」とは、
「森守会」のことで、森を守り、もりもり活動する意思を表わしています。

萩原 卓

このたび、新しくFITに入会しました萩原です。私はもともと自然が好きで、在職時代から、夏休みにはよく登山を楽しんでいました。

現在は日野市に在住しており、高尾山も近いことから、5年前から高尾山ボランティア活動を行っていました。そんな中で大先輩に進められて森林インストラクターを目指すことにしました。なかなか学習するのは大変でしたが、幸い昨年合格することができ、今回入会しました。また、世界遺産にも興味があり、世界遺産アカデミーの認定講師として、地元のカルチャースクールなどで自然遺産の魅力も話しています。

今後は、色々なFITのイベントにも参加し、奥深い自然の知識を深めるとともに、多くの方々にその魅力と自然の大切さを伝えていきたいと思っています。

これからもよろしく願います。

西出 幸子

人生のモットーは「山の向こうの景色が見たい」。新しい山、同じ山なら違うルートを目指して、しょっちゅう遠出していた。そんな生活がコロナ禍で一変。毎日テレ

ワークが続き、近所のすみだリバーウォークで一息つく日々の中、公園の樹々や雑草に初めて目が向いた。

友の会に出会えたのは、コロナ禍の僥倖だろう。今まで知らなかった自然との新しい関わり方を教わること2年。こうしてFITの会員になれたことが嬉しい。

今のモットーは「森で元気になる&元気にする」。大人が本気で学び、遊び、究めた先のすごさと楽しさを見せてくれるFITの先輩方をロールモデルに、誰もが自然を楽しむお手伝いをできたらと願っている。

福島 明

先日、春の親子自然観察会のリハーサルに参加させていただきました。足立区在住の福島と申します。様々な年代や興味の高さ、背景を持った方々へ、森の素晴らしさをどう伝えいくのか、その難しさと先輩方の工夫を感じることができました。諸先輩方はもとより、同期の皆様からしても、経験・知識とも心許ない自分ですが、「何もかもはできなくても何かはきっとできる」と信じて活動して参ります。どうぞよろしく願い致します。

守屋 緑

山歩きの途中に見る可憐な花に癒され、更に山や自然が好きになり森林インストラクターに興味を持ちました。これからは植物だけでなく分野を広め、自然に関わる知識を深めて行きたいと思えます。

鈴木 歩

R4年もりもり会(森守会)の鈴木 歩と申します。昨年度に友の会に入会し、初めての自然観察会を経験したばかりの森林初心者です。時々一人でハイキングを楽しんでいましたが、森林が好きな仲間たちと出会い、一緒に活動することがとても楽しみです。まだまだ未熟ですが、どうかご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

FIT新会員になって

吉田昇

何十年ぶりに勉強したであろうか。家内はあなたがこんなに勉強しているのを、結婚してから見たことがないという。その通りである。会社の昇格研修でもこんなに集中して勉強した記憶が私にはない。6月末から9月末まで3か月必死に勉強した。これまでの人生は電子デバイスのモノづくりが中心であった為、植物の植の字を知らない。友の会の模擬試験を受けたとき、芝原様が後1か月は1日12時間勉強しないと合格しないと言う。これは私には物凄いインパクトとなった。自分でもわかるが、ギリギリで合格したのだろう。あと1か月あれば中位で、2か月あれば上位で合格したはずである。でも非常に楽しかった。ただやたらと範囲が広すぎるというのが正直の感想。こんなに広範囲の知識が必要なのか。どっこい諸先輩方の知識と実践力はすばらしい。自然界のキャパシティの大きさ、不思議さ、面白さ、そして怖さは奥が非常に深い。これが人々を魅了

するのだろう。つけ刃の私にどうすれば習得できるのかわからない。先ずは何でもすべてにチャレンジしてから考えることにする。

大昔、針ノ木大雪溪で滑落した者として一言。「Safety First・〇〇Second」どうぞよろしくお願い致します。

立川 洋一

まずは、3年間にわたる「新人育成プログラム」を忠実にこなしていくつもりです。この言い方は、私が勝手に名付けましたが、親子自然観察会から、研修企画、オールFIT自然観察会ガイドまで、なかなかハードです。同期の面々と悩みながら進めるという「効果」も含め、この仕組みは良き伝統と思います。

また、既に先輩方のレベルの高さに触れており、これが今の私のモチベーションになっています。「いつか、そうなりたい」と。

さて、森林整備のボランティア活動の(自分の)レベルを「よりレベルアップしたい」という目標を持っています。「健全な森林とは何か」を考え、継続的に人手が入る、計画的な森林づくりに、私なりに寄与したいからです。山仕事は幅広く身に着ける動作・技術も多いので、この1年は身体を使いながら、できるだけ回数多く各地の山仕事に入っていくつもりです。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

佐藤玲子

西東京市在住の佐藤玲子と申します。より多くの人に自然のおもしろさ、美しさ、大切さを伝えたいと思い、森林インストラクターになることを目指しました。特に、子ども達が楽しく学べる場と、自然の癒しを感じる豊かな時間を創る活動に参加出来たらと考えております。

また、微力ではございますが、地域循環共生圏形成を目指した活動で、人と

人、企業、団体をつなぎ、結果として自然環境保全と持続可能な社会づくりに貢献していけたらと思います。

その為にも皆様と末永く楽しく活動していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

熊坂尚志

森守会の熊坂尚志です。昨年、合格した妻を追いかけて、なんとか今年合格することができました。ようやく夫婦で合格出来ましたので、これから森林インストラクターの先輩の技を盗ませていただき、同期の森林インストラクターの仲間と共に切磋琢磨しながら技術を磨いていけたらと思います。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

熊坂由美子

もりもり会の熊坂由美子です。私は前の年に合格しましたが、夫が今回合格しましたので、一緒に入会し、仲間に入れていただきました。

まだまだ知識、技術ともに全くありませんが、これからたくさん勉強して、せっかなので夫婦でいろいろ活動できたらなと思っています。頑張ります。

戸部美紗子

東京都出身で現在は杉並区に住んでおります。トレッキングなど自然のなかを歩くことや植物が好きです。周りの人たちにも自然の楽しさや魅力を伝えることができたらと思っています。

知識・経験ともにまだまだ不十分のため、これからも勉強を続けていきたいと思っており、自然観察会をはじめ、いろんな活動に参加し、経験を積んでいきたいと思っております。今後、皆さまとご一緒させていただくことを楽しみにしております。ご指導のほど、どうぞよろしくお願い致します。

* 事務局便り

3月11日(土)に、2023年度FIT総会が開催され、2022年度の活動報告、決算、2023年度の運営体制、活動方針、予算が承認されました。

厚生労働省は、3月13日からマスク着用は個人の判断に委ねることにしました。また、5月8日からは、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけは新型インフルエンザ等感染症と同じ5類感染症に変更します。FITとしての対応は、別途森の日で協議しますが、引き続き感染防止対策を実施した上で、各イベントに臨んでください。

☆会員情報:2月末現在会員数は、342名。

○FIT名簿改訂

3月31日時点での名簿改訂作業中です。完成次第旧HP会員のページに掲載します。

皆さんの投稿を募集
しています



フォレスト通信Vol.138

発行者 森林インストラクター東京会

編集 広報部会

事務局長 藤岡 真

住所 〒260-0031
多摩市豊ヶ丘1-58-1-202

メールアドレス: sfujioka0206@yahoo.co.jp